

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 オイシックス・ラ・大地株式会社 上場取引所 東  
コード番号 3182 URL <https://www.oisixradaichi.co.jp/>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 高島 宏平  
問合せ先責任者（役職名） 執行役員管理本部（氏名） 熊野 滋（TEL） 03-6867-1149  
本部長（代表）  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

## （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		EBITDA(※1)		経常利益		親会社株主に 帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	125,706	118.9	3,332	60.9	6,187	91.3	3,678	57.2	2,417	72.5
2024年3月期中間期	57,438	3.6	2,070	23.8	3,234	16.7	2,339	66.3	1,401	57.0

（注）包括利益 2025年3月期中間期 2,687百万円（42.1%） 2024年3月期中間期 1,891百万円（31.4%）

（※1）EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却額としています。

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	67.49	—
2024年3月期中間期	38.33	—

## （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	140,184	38,186	20.8
2024年3月期	143,728	37,420	20.2

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 29,174百万円 2024年3月期 29,069百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		EBITDA		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	255,000	71.8	7,000	36.1	11,000	33.3	3,200	△22.3	87.53	

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 1社(社名) 株式会社HiOLI 、除外 1社(社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	38,028,092株	2024年3月期	38,028,092株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	3,295,174株	2024年3月期	1,470,130株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	35,816,395株	2024年3月期中間期	36,558,073株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、経済活動の正常化が進むとともに、各種政策の効果や雇用・所得環境の改善などもあり、個人消費の持ち直しの動きがみられました。しかしながら、エネルギーコストや原材料価格の高騰に伴う物価上昇や、世界規模での金融引き締めや地政学リスク等の影響による景気停滞懸念は依然として残っており、先行きは不透明な状況が続いております。

当社の主力事業であるBtoCサブスク事業を取り巻く食品宅配業界の事業環境は、新型コロナウイルス感染症からの経済活動の正常化の中、食品宅配に対する消費者の需要もバリエーションの拡充や、より手軽さを求める商品へと多様化が進んでおります。

また、BtoBサブスク事業においては、原材料価格の高騰や慢性的な人員不足が継続し、事業環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような環境の中、当社グループにおいては、食を支えるインフラ企業として、安定的な商品供給の確保に取り組むとともに、家庭での食事や、病院や保育園等の施設での給食の在り方が大きく変化する中で、お客さまやエンドユーザー、クライアントの潜在的ニーズをいち早く捉え、満足していただける商品・サービスを提案してまいります。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は125,706百万円(前年同期比118.9%増)、営業利益は3,332百万円(前年同期比60.9%増)、EBITDAは6,187百万円(前年同期比91.3%増)、経常利益は3,678百万円(前年同期比57.2%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は2,417百万円(前年同期比72.5%増)となりました。

なお、2024年1月からシダックス株式会社を連結子会社化したことに伴い、事業セグメントの見直しを行っております。2024年3月期第4四半期以降は、「BtoCサブスク事業」「BtoBサブスク事業」「社会サービス事業」「車両運行サービス事業」「その他事業」の5つのセグメントで開示しております。

#### ① BtoCサブスク事業

BtoCサブスク事業では、ウェブサイトやカタログを通じてお客様より注文を受け、独自の栽培、生産基準に基づいた環境負荷の少ない高付加価値の食品(青果物・加工食品・ミールキット)や、日用品や雑貨等を宅配する事業を行っております。

主要ブランドであり共働きの子育て世代を主要ターゲットとする「Oisix」、国産の食材や自然に近い素材に価値を感じる世帯を主要ターゲットとする「大地を守る会」、料理などの日常生活を通じて社会貢献をしたい世帯を主要ターゲットとする「らでいっしゅぼーや」、プラントベースを志向し、食生活を通じた健康な生活の実現に関心の高い消費者を主要ターゲットとする「Purple Carrot」の4つのブランドを展開しております。「Oisix」「大地を守る会」「らでいっしゅぼーや」は国内、「Purple Carrot」は米国で事業を展開しております。

売上高については、第1四半期に引き続き「Oisix」「大地を守る会」では前年同期比で会員数が減少、「らでいっしゅぼーや」では会員数が増加した一方でライトユーザー比率の増加に伴うARPUが低下したことから、前年同期と比べて減少しました。

セグメント利益については、「Purple Carrot」における新規会員獲得費用の積極的な投下を行った一方、「Oisix」における自社製造品での原価率の改善や、購買単価の増加により物流関連費の固定的費用が圧縮されたことから、前年同期と比べて増加しました。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	48,178百万円(前年同期比 2.4%減)
セグメント利益	4,145百万円(前年同期比 9.5%増)

#### ② BtoBサブスク事業

BtoBサブスク事業では、企業、官公庁、保育園等の食堂の給食及び管理業務、病院の入院患者を対象とした給食や老人保健施設等の給食などの受託運営、並びに外食産業に利用する食材販売を行っております。

売上高については、運営店舗数の着実な増加に加え、前年同期にはオフィスや工場、高齢者施設など既存店舗に

においてコロナ禍の影響による喫食数の落ち込みがわずかに見られていたことから、シダックス株式会社時の前年同期と比べて増加しました。また、保育園を対象にミールキットを活用した取組みや、プレミアムラインの高齢者施設での給食受託運営等のシナジー創出も強化しており、導入施設数や提案の幅も拡大しております。

セグメント利益については、継続的な原材料の高騰や労務費の上昇の影響により、原価率が悪化し、シダックス株式会社時の前年同期と比べて減少しました。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	30,438百万円(前年同期は781百万円)
セグメント利益	420百万円(前年同期は8百万円)

### ③ 社会サービス事業

社会サービス事業では、地方自治体からの学校給食、放課後児童クラブ、児童館、図書館、道の駅等の施設管理及び運営、並びに民間企業からの各種アウトソーシングを受託しております。

売上高については、少子高齢化による人手不足やコストアップの流れを受けた行政サービスの民間への委託のニーズをとらえ、前年度から継続して、積極的な提案活動を行っております。特に学童保育事業や学校給食事業を中心に、多様化する子育てニーズに対して様々なコンテンツの提案を行うことで、受託件数を着実に増加させたことにより、シダックス株式会社時の前年同期と比べて増加しました。

セグメント利益については、労務費の上昇影響や、前年同期に受託した単発的なコロナ関連業務の剥落などの影響により、シダックス株式会社時の前年同期と比べて減少しました。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	25,747百万円(前年同期比 ー%)
セグメント利益	999百万円(前年同期比 ー%)

### ④ 車両運行サービス事業

車両運行サービス事業では、民間企業や官公庁・地方自治体からの車両運行管理業務のアウトソーシングを受託しております。

売上高については、企業の役員向け車両においてWebプロモーションの強化による好調な受注の継続に加え、既存路線バスの撤退や学校の統廃合によるスクールバス需要等、地方における移動手段ニーズの高まりを捉えた提案活動の強化による案件の獲得などにより、シダックス株式会社時の前年同期と比べて増加しました。

セグメント利益については、労務費や燃料単価の上昇などもありましたが、増収効果により、シダックス株式会社時の前年同期と比べて増加しました。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	13,384百万円(前年同期比 ー%)
セグメント利益	979百万円(前年同期比 ー%)

### ⑤ その他事業

当セグメントは、他社EC支援事業や移動スーパー事業、Webシステム開発事業等から構成されております。売上高は、M&Aにて取得した子会社の寄与などの効果により、前年同期と比べて増加しました。

一方で、セグメント利益については、他社EC支援事業において、ISETAN DOORについては順調に進捗しているものの、dミールキットのサービス終了したこと、また子会社ののれん償却額が増大している影響などにより前年同期と比べて減少しました。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	9,121百万円(前年同期比 11.4%増)
セグメント利益	651百万円(前年同期比 2.1%減)

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して3,544百万円減少し、140,184百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して4,236百万円減少し、57,491百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少6,008百万円、売掛金の増加724百万円、その他流動資産の増加489百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して692百万円増加し、82,692百万円となりました。これは、有形固定資産の増加1,097百万円、無形固定資産の減少227百万円、投資その他の資産の減少177百万円によるものであります。

当中間連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して4,310百万円減少し、101,997百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して11,605百万円減少し、51,269百万円となりました。これは主に、未払金の減少10,163百万円、未払法人税等の減少2,175百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して7,295百万円増加し、50,727百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加7,678百万円、リース債務の減少576百万円によるものであります。

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して766百万円増加し、38,186百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益2,417百万円、自己株式の取得2,303百万円、非支配株主持分の増加660百万円、為替換算調整勘定の増加288百万円によるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、23,433百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、261百万円となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益4,117百万円、減価償却費2,249百万円、のれん償却額605百万円、売上債権の増加額780百万円、未収入金の減少額139百万円、未払金の減少額2,065百万円、契約負債の増加額891百万円、法人税等の支払額3,010百万円によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、11,099百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,920百万円、無形固定資産の取得による支出388百万円、投資有価証券の取得による支出345百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出8,271百万円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は、5,255百万円となりました。これは主に、短期借入金の純増加額590百万円、長期借入れによる収入7,360百万円、自己株式の取得による支出2,311百万円、リース債務の返済による支出628百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月14日付「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,649	23,640
受取手形	57	40
売掛金	24,879	25,603
商品及び製品	2,438	2,754
仕掛品	125	162
原材料及び貯蔵品	1,595	1,902
未収入金	1,553	1,415
その他	1,713	2,203
貸倒引当金	△285	△231
流動資産合計	61,728	57,491
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	19,453	18,846
その他(純額)	6,946	8,652
有形固定資産合計	26,400	27,498
無形固定資産		
顧客関連資産	25,655	25,065
のれん	14,794	15,258
その他	3,081	2,980
無形固定資産合計	43,531	43,304
投資その他の資産		
投資有価証券	3,339	3,894
繰延税金資産	5,132	4,260
その他	3,669	3,794
貸倒引当金	△74	△58
投資その他の資産合計	12,067	11,890
固定資産合計	82,000	82,692
資産合計	143,728	140,184

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,159	11,403
短期借入金	15,045	15,673
1年内返済予定の長期借入金	2,166	1,852
リース債務	1,270	1,264
未払金	15,938	5,775
未払費用	8,924	8,400
未払法人税等	3,224	1,048
契約負債	505	1,396
賞与引当金	1,552	1,573
ポイント引当金	87	101
資産除去債務	32	16
その他	2,968	2,762
流動負債合計	62,875	51,269
固定負債		
長期借入金	14,648	22,327
リース債務	18,598	18,022
資産除去債務	942	1,293
繰延税金負債	8,911	8,703
その他	331	381
固定負債合計	43,432	50,727
負債合計	106,307	101,997
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,995	3,995
資本剰余金	8,021	8,022
利益剰余金	20,376	22,528
自己株式	△4,504	△6,807
株主資本合計	27,890	27,739
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	245	212
為替換算調整勘定	934	1,222
その他の包括利益累計額合計	1,179	1,435
新株予約権	38	38
非支配株主持分	8,312	8,973
純資産合計	37,420	38,186
負債純資産合計	143,728	140,184



(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	57,438	125,706
売上原価	28,790	88,399
売上総利益	28,648	37,307
販売費及び一般管理費	26,577	33,975
営業利益	2,070	3,332
営業外収益		
受取利息	0	5
受取配当金	4	46
団体定期配当金	—	191
受取補償金	10	12
為替差益	—	42
持分法による投資利益	26	539
投資事業組合運用益	278	—
その他	22	77
営業外収益合計	343	915
営業外費用		
支払利息	68	353
為替差損	4	—
投資事業組合運用損	—	61
その他	1	154
営業外費用合計	74	569
経常利益	2,339	3,678
特別利益		
投資有価証券売却益	6	—
段階取得に係る差益	—	439
特別利益合計	6	439
特別損失		
投資有価証券評価損	7	—
特別損失合計	7	—
税金等調整前中間純利益	2,338	4,117
法人税、住民税及び事業税	741	906
法人税等調整額	△17	753
法人税等合計	723	1,660
中間純利益	1,615	2,457
非支配株主に帰属する中間純利益	213	40
親会社株主に帰属する中間純利益	1,401	2,417

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	1,615	2,457
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△42	△27
為替換算調整勘定	295	296
持分法適用会社に対する持分相当額	23	△39
その他の包括利益合計	276	230
中間包括利益	1,891	2,687
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,762	2,682
非支配株主に係る中間包括利益	128	5

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	2,338	4,117
減価償却費	1,028	2,249
のれん償却額	136	605
貸倒引当金の増減額(△は減少)	47	△69
賞与引当金の増減額(△は減少)	1	15
受取利息及び受取配当金	△4	△51
支払利息	68	353
為替差損益(△は益)	1	—
持分法による投資損益(△は益)	△26	△539
投資事業組合運用損益(△は益)	△278	61
投資有価証券評価損益(△は益)	7	—
段階取得に係る差益	—	△439
売上債権の増減額(△は増加)	244	△780
未収入金の増減額(△は増加)	1,129	139
棚卸資産の増減額(△は増加)	△193	△467
仕入債務の増減額(△は減少)	△13	142
未払金の増減額(△は減少)	△428	△2,065
契約負債の増減額(△は減少)	△19	891
未払費用の増減額(△は減少)	88	△537
その他	△209	△574
小計	3,915	3,052
利息及び配当金の受取額	160	49
利息の支払額	△68	△353
法人税等の支払額	△696	△3,010
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,311	△261
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△371	△1,920
無形固定資産の取得による支出	△590	△388
投資有価証券の取得による支出	△223	△345
関係会社株式の取得による支出	—	△29
敷金及び保証金の差入による支出	△0	△114
敷金及び保証金の回収による収入	0	10
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△8,271
その他	△7	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,192	△11,099
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△25	590
長期借入れによる収入	—	7,360
長期借入金の返済による支出	△14	△360
非支配株主からの払込みによる収入	300	1,109
自己株式の取得による支出	△0	△2,311
非支配株主への払戻による支出	—	△503
リース債務の返済による支出	△347	△628
その他	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△88	5,255
現金及び現金同等物に係る換算差額	94	99
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,124	△6,007
現金及び現金同等物の期首残高	14,720	29,440
現金及び現金同等物の中間期末残高	16,845	23,433

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	中間連結損 益計算書計 上額 (注)3
	BtoC サブスク	BtoB サブスク	社会 サービス	車両運行 サービス	計			
売上高								
宅配(Oisix)	30,740	—	—	—	30,740	—	—	30,740
宅配(大地を守る会)	5,731	—	—	—	5,731	—	—	5,731
宅配(らでいっしゅぼーや)	8,244	—	—	—	8,244	—	—	8,244
宅配(Purple Carrot)	4,644	—	—	—	4,644	—	—	4,644
メディカルフードサービス	—	—	—	—	—	—	—	—
コントラクトフードサービス	—	—	—	—	—	—	—	—
すくすくOisix	—	781	—	—	781	—	—	781
学童保育	—	—	—	—	—	—	—	—
学校給食	—	—	—	—	—	—	—	—
社会サービス	—	—	—	—	—	—	—	—
役員車両管理	—	—	—	—	—	—	—	—
一般車両管理	—	—	—	—	—	—	—	—
旅客運送	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	7,296	—	7,296
顧客との契約から生じる収益	49,360	781	—	—	50,142	7,296	—	57,438
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	49,360	781	—	—	50,142	7,296	—	57,438
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	888	△888	—
計	49,360	781	—	—	50,142	8,184	△888	57,438
セグメント利益	3,786	8	—	—	3,795	666	△2,390	2,070

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、他社EC支援事業や移動スーパー事業、Webシステム開発事業を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における内容は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	中間連結損 益計算書計 上額 (注)3
	BtoC サブスク	BtoB サブスク	社会 サービス	車両運行 サービス	計			
売上高								
宅配(Oisix)	29,033	—	—	—	29,033	—	—	29,033
宅配(大地を守る会)	5,305	—	—	—	5,305	—	—	5,305
宅配(らでいっしゅぼーや)	8,196	—	—	—	8,196	—	—	8,196
宅配(Purple Carrot)	5,642	—	—	—	5,642	—	—	5,642
メディカルフードサービス	—	16,295	—	—	16,295	—	—	16,295
コントラクトフードサービス	—	11,584	—	—	11,584	—	—	11,584
すくすくOisix	—	966	—	—	966	—	—	966
学童保育	—	—	11,774	—	11,774	—	—	11,774
学校給食	—	—	7,683	—	7,683	—	—	7,683
社会サービス	—	—	6,266	—	6,266	—	—	6,266
役員車両管理	—	—	—	5,784	5,784	—	—	5,784
一般車両管理	—	—	—	5,224	5,224	—	—	5,224
旅客運送	—	—	—	2,345	2,345	—	—	2,345
その他	—	1,566	—	—	1,566	7,928	—	9,495
顧客との契約から生じる収益	48,178	30,414	25,724	13,354	117,671	7,928	—	125,600
その他の収益(注)4	—	—	—	—	—	106	—	106
外部顧客への売上高	48,178	30,414	25,724	13,354	117,671	8,034	—	125,706
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	24	22	30	77	1,086	△1,164	—
計	48,178	30,438	25,747	13,384	117,749	9,121	△1,164	125,706
セグメント利益	4,145	420	999	979	6,544	651	△3,864	3,332

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、他社EC支援事業や移動スーパー事業、Webシステム開発事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における内容は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 「その他の収益」は、「リース取引に関する会計基準(企業会計基準第13号)」に基づく収益であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、シダックスホールディングス株式会社を連結子会社としたことを契機に、事業ポートフォリオの組替えやそれに伴う取締役会での業績評価・分析指標の見直しを行い、セグメント利益の算定方法及び報告セグメントを変更しております。

報告セグメントは、従来の「宅配事業(Oisix)」、「宅配事業(大地を守る会)」、「宅配事業(らでいっしゅぼーや)」、「宅配事業(Purple Carrot)」から、「BtoCサブスク」・「BtoBサブスク」・「社会サービス」・「車両運行サービス」に変更しております。

「BtoCサブスク」事業は従来の「宅配事業(Oisix)」、「宅配事業(大地を守る会)」、「宅配事業(らでいっしゅぼーや)」、「宅配事業(Purple Carrot)」が含まれており、「BtoBサブスク」事業は保育園への食材等の卸売を行う「すくすくOisix」事業と、連結子会社シダックス株式会社及び同関係会社(以下、シダックスグループといいます。)のフードサービス事業が含まれております。また、シダックスグループの、「社会サービス」事業と「車両運行サービス」事業をそれぞれ報告セグメントに追加しております。

セグメント利益の算定方法は、従来、全社費用としておりました、非正規雇用者(パートタイマー・アルバイトを含み、派遣社員等を除く)以外の雇用者にかかる給料手当及び法定福利費(以下、「固定人件費」といいます。)及び一部の事業運営関連経費を、各事業セグメントへ配分することへ変更しております。

なお、当中間連結会計期間の比較情報として開示した前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法及び変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度に開示した中間連結会計期間に係るセグメント情報の利益又は損失の算定方法及び報告セグメントとの間に相違が見られます。